

大腸ファイバー こぼれ話

ときとうクリニック(埼玉県) 院長 時任敏基

● 大腸ファイバー専門医たる手技

大腸ファイバー (Colono Fiberscopy: 以下、CF) は自動車の運転に似ています。すなわち、ドライバーが手と足を協調して動かすことでスムーズに運転するのと同様、両手の協調運動であり、左手の指で上下、左右をコントロールし、右手でひねり動作などを行い、ファイバーを大腸の奥へ運んでいきます。専門医の専門医たるゆえんは挿入に用いるテクニックの数、つまり“引き出しの数”であると考えます。婦人科手術や放射線照射の影響でS字結腸が癒着、狭窄しているケースなどは手強く、ここを越えたいというときの、引いたりひねったりする一連の操作バリエーションの数とCFに要する時間は相関します。CFは時間をかけないでスムーズに検査することが患者満足につながりますので、困ったときに無理な力をかけないで、手さぐりしながらかき分けていく手技が必要です。当然、経験を多く積んでいる医師ほど困難なときの対応の仕方、引き出しが多いので、上手な、そして患者満足度の高いCFが可能になるかと思えます。

● 患者満足度を意識した当院の取り組み

当院は開業以来、口コミでCFの患者さんが増えてきました。

粘膜内癌などの早期がんでは内視鏡下で取り除く症例も多く見受けられます。痔瘻の入院患者さんでクローン病を見つけたことも多数あります。IBS (過敏性腸症候群) かUC (潰瘍性大腸炎) か診断をしっかり付けて欲しいという依頼もありました。治療方法がまったく異なるので、CFの威力は大きいと思えます。

● 西洋医学と漢方の補完関係

CFではおもしろいエピソードもあります。定期的に経口腸管洗浄剤で腸洗浄している若い女性のケースです。確認していませんが、ダイアナ妃が行っていたといわれる美容法を真似ているようです。定期的に宿便をウォッシュアウトされています。いくら腸洗浄しても大腸の腸内細菌はしたたかで、粘膜に潜り込んで生き残ります。腸内細菌はビタミン、腸管免疫、漢方薬の吸収、便のボリュームなどにも貢献していますので大事にする必要がありますが、抗生剤を長期

服用すると腸内細菌が減ります。善玉菌が減り、悪玉菌が生き残ります。なるべく抗生剤は短期的に使用したいものです。

下痢を繰り返す患者さんでCFで大腸内に炎症、びらん、浮腫など、何も見つからないケースも多く見られます。見つからないことが重要であり、患者さんにはビジュアルにてリアルタイムにご自身の大腸内を見せ

て確認し、納得いただいています。このようなケースはIBSと診断するケースが多く、普通はラモセトロン塩酸塩を処方しますが、女性への適用がなく、男性でも5μgで便秘になるケースも見受けられます。そこで漢方薬の出番です。当院では半夏瀉心湯の錠剤を処方しています。また、内痔核の手術後の排便管理には乙字湯を処方しています。痔の術後の排便時の疼痛に対して乙字湯を服薬すると便が軟らかくなり、痛みが軽減します。患者満足度向上に貢献する優れた漢方薬です。痔の手術で入院した患者さんの中には「神様のような薬」と表現される方もおられます。

またがん術後や放射線治療後の晩期後遺症の疲労倦怠感などは西洋医学では対応できないため、漢方医を紹介しています。近医の漢方専門医から補中益気湯が処方されています。定期的な大腸検査と漢方診療、診診連携は補完関係にあり、多面的に役立っています。また、近医の内科リウマチ科からはCFの検査依頼があります。外科(大腸肛門科)と内科(膠原病)、共通するのが生物学的製剤(関節リウマチとクローン病)であり、診診連携しながらコミュニケーションを図っています。餅は餅屋に任せるのが患者満足度の向上のためと信じています。

最後のエピソードとして、「進行がんをよく見つけたね」という症例をご紹介します。30歳の女性、出産後、痔が悪化して便出血。痔の手術時、念のためにCFを行ったところ進行がんを見つけた経験があります。CFで診て悪かったという話は聞いたことがありません。検査をしっかり受けることが基本と認識しています。

